

## 香港攀岩情報 Rock Climbing In Hong Kong

By RCT 2011/12/08

### <はじめに>



「香港」の一般的なイメージは、高層ビル群が立ち並ぶ大都会、香港映画、屋台街、夜景、グルメ、スターフェリーやピークトラム、そして一昔前の「東洋の魔窟」と呼ばれた「九龍城寨」、等々ではないかと思われるが、観光から離れて、クライミングという観点から見つめなおすと、この「香港」という狭いエリアの中に、ボルダリングを含めた沢山のクライミングエリアが犇んでいることに驚かされる。

実際に行ってみて気付いたことだが、最近埋め立てで平地が増えてきたとはいえ、香港のほとんどは海に浮かぶ岩山であり、そのしっかりとした地盤の上の急傾斜地に高層ビル群が建てられている。

香港のクライミングエリアについては、日本では以前、「岩雪 149 号」に「東龍島」と「石澳」が紹介されたが、ルート名は分からず、グレードなど一部不正確な部分もあり、その後の情報は、たぶん登りに行っている日本人は多いと思われるが、殆ど紹介されていない。

現在は、ネット時代であるため、香港も例にもれず様々なクライミング情報を簡単に得ることができる。特に嬉しいのは、「HongKongClimbing.com (英語)」というサイトでトポを含めた香港のクライミングエリア情報が殆ど手に入ることである。

今回の香港ツアーについては、3月の大震災で、とある場所のクライミングツアーが中止になり、その後の怪我也あって、今年は海外に出るのは止めようかと考えていたが、11月末から12月にかけて休みが入ったため、近場なのでいつでも行けると考えていた香港に急遽登りに行くことになった。

建物と雑踏という雰囲気が好きではないというクライマーも多いかと思われるが、ちょっとグルメを兼ねてクライミングという人にとっては打って付の場所でもあり、旅行会社のよくある「終日フリー行動のバック旅行」の3泊4日程度でも十分に楽しめるので、興味のある方は是非行ってみてはどうかと思う。

また現在円高なので、当然安くなるはずのクライミングギアの購入を香港でしてくるという形も大いにお薦めである。実際、香港のギアの価格は思ったほど低くはないが、多めに購入すれば、旅費分の幾らかを補えるという利点もある。

観光スポットや交通網の利用については、多くの情報があるので割愛し簡単な説明に留め、クライミング関係の一般情報、今回訪れたエリアのアプローチや岩場情報を中心に、ネットでは得られない部分も含めて、簡単ではあるが以下に紹介したい。



### <一般情報>

#### ●サイト情報&トポ

香港のクライミングエリアの情報やトポについては、その多くが以下のサイトで手に入る。最新情報については、載せられていないので、他のサイトを検索して情報を集める必要がある。

○HongKongClimbing 香港攀岩 (英語) <http://hongkongclimbing.com/>

Tung Lung Chau <http://www.hongkongclimbing.com/downloads/tunglung.pdf>

Central Crags <http://www.hongkongclimbing.com/downloads/centralcrag.pdf>

- Rock + Run <http://info.rockrun.com/articles/climbing-in-hong-kong.html>
- ROCK CLIMBING.com Hong Kong [http://www.rockclimbing.com/routes/Asia/Hong\\_Kong/](http://www.rockclimbing.com/routes/Asia/Hong_Kong/)
- UKClimbing.com <http://www.ukclimbing.com/articles/page.php?id=31>
- 27 Crags Beacon Hill <http://27crags.com/crags/beacon-hill/topos>
- 奥林派 東龍島攀岩 <http://www.omuser.com/viewthread.php?tid=135006>
- 雪峰攀山訓練中心 [http://icecrown.mountaineering.hk/icecrown\\_outdoorKLN.html](http://icecrown.mountaineering.hk/icecrown_outdoorKLN.html)
- 東龍島 (Tung Ling Island) 船時刻表 ~香港秘境への旅  
<http://ameblo.jp/hk-kingyo/theme7-10015227556.html>

### ●クライミングギア&ショップ

クライミングに必要なギアは、トラッドエリアやトラッドラインをトライする場合はカム類が必要とはなるが、今回訪れたエリアに限って言えば、60m ロープ、ヌンチャク 20 本、スリング 3~4 本、下降器、心配ならヘルメット、他にビレイデバイス等一般的に使用するものがあれば十分である。

ギアの購入は、メーカーを選ばなければ登山用品店で殆んどが手に入る。何でも構わなければ、現地調達も良いのではないとも言える。ショップは九龍や香港島の何箇所かにあるが、今回覗いてみたのは九龍の旺角駅女人街周辺にある下記の 3 店舗である。

何れの店もクリスマス・シーズン中であるためか割引をしてくれる。価格自体が日本の価格の 1~5 割安いので、この先必要なものや、普段自分が使用しているメーカーのものなどを沢山購入すれば何万もお得で、「日本での購入額=香港での購入額+旅費」となることも十分考えられる。一見したところ、特に安いのはクライミング・シューズで、ペトルやブラックダイヤモンドのギアはそれほど安くはない。香港では、クライミングはまだある程度裕福な人達の遊びなのかもしれない。

- 毅成戶外用品 RC Outfitters 旺角毅成 <http://www.alink.com.hk/>

アップルショップ横の、ちょっと暗い路地を入れて左に入口があり 5 階と 6 階に店がある。会員になると割引があるというので会員になった。(無料) 靴は Evolv がメインで、ファイヴ・テンやスポルティバはなし、カムはキャメロットはなくフレンズが置いてある。

- 香港攀山訓練中心 & Chamonix <http://www.chamonix.com.hk/shop.html>

香港攀山訓練中心は花園街の南にあり、ギア類は多くはないが、キャメロットが幾つか置いてあった。ここは油麻地駅からも近い。Chamonix は旺角駅の銀行中心方面に出て、女人街の角にある。2 階が店でギア類はある程度豊富だが、キャメロットはストックが殆どなく、靴はファイヴ・テンがメインである。

### ●宿泊・食事・買い物

今回の宿泊は「LARGOS」(朝食なし)を利用した。このホテルは MTR 佐敦駅 B 出口から直ぐの南京街角にあり観光はもとよりクライミングにとっても非常に便利な場所にある。サービスは宿泊料相応だが、ホテル内や室内は清潔感があり、TV、冷蔵庫、エアコン付き。バスタブはなくシャワーのみなので、冬の寒い季節は風邪などひかないよう注意したい。チェックイン時 30HK\$ (3000 円でも可) のデポジットが必要。フロント (1F=2 階) にセーフティボックスがある。日本人の宿泊は少ないようで日本語は通じず、西洋人や大陸からの中国人が多いようである。食事は朝早くから近くの食堂が何箇所か開いており困ることはなく、コンビニやスーパー、デパートも近くにあるので、好条件が揃っている場所である。

クライミングとグルメをメインに考えているなら、安いゲストハウスという考えもあるが、ある程度の疲労回復と静かなプライベートな時間が必要と考えるなら、あるレベル以上のホテル滞在をお勧めしたい。

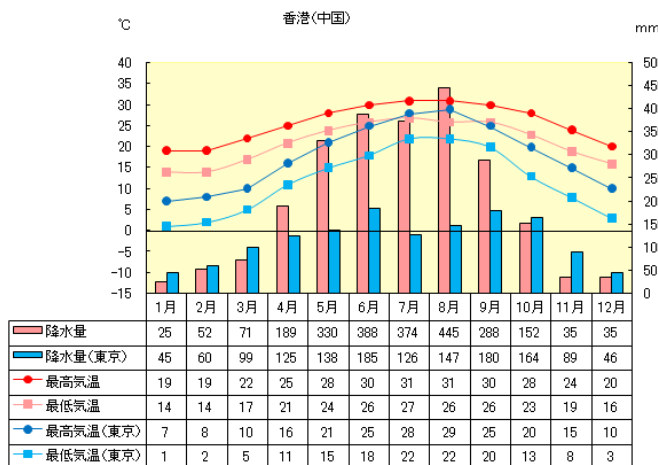
## ●オクトパス（八達通/Octopus）



オクトパスはICカード式の乗車券でバスやトラム、フェリー、コンビニやスーパー、デパートでも使える優れもの。もともと香港の交通費はどれも日本とは比較にならないほど安いですが、持っているとお釣りを気にする必要もないし、特典もあるのでお薦めである。種類は普通の祖用版とツーリスト用の祖用版があるが、どちらが得かは何とも言えず、その人の香港での過ごし方による。空港から香港の中心までエアポート・エクスプレスに乗って高いツーリスト・オクトパスを使っても、その後3日間頻繁にMTRを使うなら得とも言えるし、そうでなければ安いエアバスを使って入る普通のオクトパスの方が結果的には手数料を取られてもお得である。ちなみに、私達は普通のオクトパスを購入しホテル近くまでエアバス（A21,33HK\$）に乗った。（帰国時は佐敦駅近くでA22のエアバス、39HK\$）

## ●気候とクライミング・シーズン

香港の気候は「亜熱帯性気候」である。夏は雨が多く気温も高いのでクライミングには適さない。クライミングは台風の来なくなる11月から3月ごろまでが良いようだが、冬は曇ったり、風が強かったりすると非常に寒いようである。



今回も夕方からは長袖とジャケットが必要で、地元の人の中にはダウンジャケットを着込んでいる人も見受けられた。必ず長袖とジャケット、長ズボンは持参したい。

日中、クライミングエリアではたいがい高木が少なく、また東龍島へのフェリーでも風の影響をまろに受けることになるので、ジャケットは必要である。クライミングウェアも長めのものと短めのものの両方あると良い。

雨が少ない時季は、反面乾燥しており水分が必要なので、夏のような熱中症の心配はないが多めの水を持参したい。水はコンビニやスーパーで購入するが、スーパーが一番安く、1.5L2本で安いものなら10HK\$のものがある。

## ●クライミング・ジム

今回クライミング・ジムには行く機会がなかったので具体的な情報はない。ネットで検索すると幾つかの情報が得られる。雨の日の利用やクライミング情報を得るには良いかもしれない。

## ●コンセント・プラグ

BFタイプがほとんどである。プラグさえ持参すれば、携帯やカメラの充電器は変圧器無しでそのまま使用できるので特に問題はない。

## 香港攀岩 東龍島・Beacon Hill・Central Crags

By RCT 20111208

### ●東龍島（トンレンチョウ）

#### ○アクセス&アプローチ



東龍島に行くには、MTR 西灣河（サイワンホー）駅で降り、A 出口を出て右に海岸に向かって高速道路をくぐり、5 分ほどでフェリーの出る海沿いの愛動道に出る。海縁の歩道を右に行くと、すぐにフェリー乗り場があるが、土日祝日以外は木曜一便のみ運行となっている。早い時間帯には看板がなく船も岸壁についていないが、待っていればそのうち船がやってくる。運行時間や料金の詳細は下記サイトで確認してほしい。東龍島行きフェリーは、対岸の「三家村」からも出ているので、自分の宿泊場所から行きやすい方を選べばよい。

「東龍島 (Tung Ling Island) 船時刻表 ~香港秘境への旅」

「東龍島 (Tung Ling Island) 船時刻表 ~香港秘境への旅」

<http://ameblo.jp/hk-kingyo/theme7-10015227556.html>



約 35 分ほどで東龍島の棧橋に到着する。ここからのアプローチは、コンクリートの歩道を登り、食堂から左へ（北方向）ハイキング道を暫く行くと、視界が開け、道は下りになり遠く右方向にキャンプ場が見えてくる。途中食堂を過ぎ、暫く行くとキャンプ場、バーベキュー場、トイレがある「東龍州砲台特別地区」に着く。ここまで 30 分程である。



ここからテクニカル・ウォールへは細い踏み跡をまっすぐに進み、注意しながら岩場を下って左に回り込めばすぐである。シー・ガリーへは、キャンプ場から右に日本では見られない葉の長い松林を抜け、左上に登るとガリーへの降り口に着く。

トイレは MTR の駅内にはないので、西灣河駅 A 出口を出たら、すぐ右のスーパー内 1 階魚介類売り場と食堂の奥に無料トイレがある。あとは東龍島棧橋とキャンプ場にあるので、できるだけそこで済ませるようにする。クライミング中もキャンプ場のトイレ

は近いので便利である。（写真はシー・ガリー上から見たテクニカル・ウォール方面）

#### ○テクニカル・ウォール概要

香港のクライミングエリアの中で、最も人気のあるエリアで、岩質は「岩雪」には花崗岩と説明があるが、確認すると、どちらかというとな山岩のようである。取りつきが広いテラスになっており、高差は 15m から 20m 程で、殆どがスポーツルートである。左半分は前傾フェイスで高難度ルートが多く、右半分はハングとスラブで構成され、易しいルートが多いので、上級者から初心者まで、各自の実力に合わせて楽しめる岩場である。壁は東を向いており、昼を過ぎると日影になり、午後がクライミングに適しているため、クライマーの出足はのんびりである。日本の城が崎も同様だが、強風の日や波が荒い日は波飛沫が飛ぶので、クライミングには適さず、地元のクライマーは天候を見ながら来るかどうかを判断するようである。



このエリアは人気が高く、土日祝日は非常に混雑し、目的のルートがトライできない可能性が高い。今回はそれを想定して、まず木曜日に訪れたところ、全くの貸し切り状態であったため、目的のルートマイペースで登ることができた。しかし、土曜日にシー・ガリーで登った後に再度訪れた時は、目ぼしいラインはなかなか空かず、トップロープが張られたりしてトライできない状況になっていた。もし日本から行く場合は、そのような点を考慮して、平日の木曜にいけるようツアーの日程を組んだ方がよい。

人気ルートは、コーナーとその左右のライン、

パープル・ハート、スモール・コーナーなどで、常にクライマーが取りついており、土日はたぶん順番待ちを強いられるだろう。

ちょっと気になるのは、リードした後に、その終了点で TR トライをしているクライマーがいるようだが、もし TR で何度もトライするなら、リード者の迷惑にならないよう、自分のヌンチャクで支点を作りトライしてもらいたいものである。また混雑時はリード後に直ぐロープを引き抜くということも、マナーとして心掛けたいものである。

#### ○シー・ガリー概要



テクニカル・ウォールからさほど遠くではないにも拘わらず、こちらはあまり人気がないようで、土曜日はテクニカル・ウォールが混雑していたにも関わらず、セントラル・スラブのマルチピッチを登る 1 パーティーの他にクライマーが来ることはなかった。理由は初心者や初級者に手ごろなラインがない、取りつきが不安定で登るにはフィックスが必要であることなどが挙げられる。メイン・フェイスはアプローチを下って直ぐの入口壁、及びテラスとテラス下の上下に分かれており、高差はそれぞれ 15m から 20m 程で、部分的にハングはあるものの、垂直のフェイスルートが中心である。壁は北面であるため、陽射しがなく風が吹くと冬は寒いのではないと思われる。他には左側の壁や巨大なセントラル・スラブなどがあるが、あまり一般的ではないようだ。

#### ●ビーコン・ヒル

##### ○アクセス&アプローチ



このエリアはバスと徒歩で行けないことはないが、時間がかかり、意外と急な登り坂なので、MTR 石硤尾駅からタクシーで龍欣（ルンヤン）道途中の水道施設のある車止め手前（休憩所あり）まで行くのが便利である。あとは貯水池の右の急登を 20 分程で岩場に着く。ホテルを出て、1 時間以内で到着という驚きの近さである。

復路は、タクシーを降りた龍欣道まで降りたら、そのまま休憩所の横のコンクリートの階段を下り、

広い通りに出て少し下ると高層住宅の中のバス停に着くので、石硤尾駅までバスを利用する。

### ○ビーコン・ヒル概要



この岩場は南面で明るく、岩質は堅い花崗岩で結晶が粗く、指先にくる反面フリクションの効きは良好である。高差は 15m~25m 程で前傾壁とクラックスラブで構成されたスポーツルート中心の岩場で、下地も良く初心者から楽しめるので、ここも東龍島と並んで人気が高いエリアのようである。

私たちが訪れたのは金曜日であったため、午後に1グループが来たのみだったが、たぶん土日はクライマーでいっぱいになるだろうと思われる。

人気ルートは、リザード、ピース・フォレバー、エンジェル・ウイング、プリティ・ガール、等のようなのだが、他にクライマーが殆どいなかったもので、休日の混雑状況は分からない。リザード辺りのフェイスをトライしたいのなら、ここは平日に行くことをお勧めする。

### ●セントラル・クラッグス

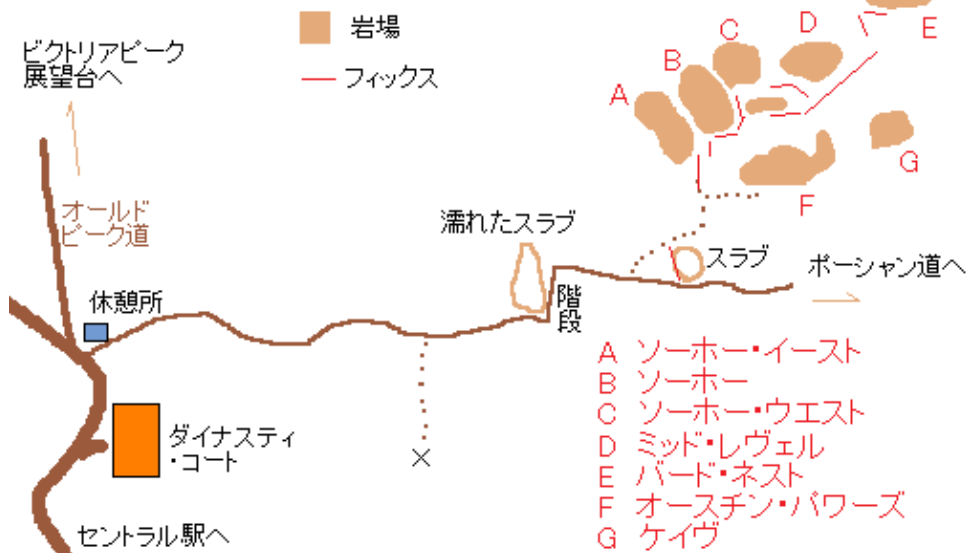
#### ○アクセス&アプローチ



最初、セントラル駅から、ポーシャン道近くのバス停まで行き、そこから岩場へのトレイルに入るアプローチを考えていたが、ビーコン・ヒルで会った地元のクライマーからの、オールドピーク道からのアプローチの方が分かりやすいという助言に従って、まず、MTR 金鐘 (Admiralty) 駅からタクシーでダイナスティ・コートまで行く。

そこから2分程車道を登ると、オールドピーク道 (車進入できない) と岩場へのトレイルの分岐 (休憩所がある) に着く。

#### <セントラル・クラッグス>



休憩所がある) に着く。休憩所から水平道を進み、左に濡れたスラブを見て階段を上って、さらに少し下った辺りのスラブにあるフィックスを登る。ここまで20分位である。

ここから右に行けばオースチン・パワーズ・クラッグからケイヴ・クラッグへと続き、ま

た、上にフィックスを登ればソーホー・クラッグの取りつきからソーホー・ウエスト、ミッド・レベルス、バード・ネストへと続く。

復路は、ダイナスティ・コートまで戻ったらバスを利用し、セントラル駅か金鐘駅まで出てもいいが、私達はそのまま徒歩で、「動植物公園内」を観て、セント・ジョンズ教会から摩天楼の中を通りセントラルまで下った。

### ○セントラル・クラッグス概要

この岩場は、最近高難度のラインができつつあるようだが、どちらかといえば初級から中級レベルの岩場である。この岩場の魅力は何と言っても、眼下に広がるセントラルのビル群やビクトリア・ハーバーを見下ろしながらのクライミングであり、それが香港クライミングの代名詞ともなっている。

岩質は堅い花崗岩であるが、一見したところ、岩の表面や全体のイメージは湯河原幕岩の雰囲気がある。高差は10mから30m程で、長さ40mのラインもある。全体としてハングはあるものの、垂直のフェイスが多く、かぶったパワフルなラインは少ない。昔から登られていただけあって、トラッドラインも少なからずあり、マルチピッチも楽しめる。



私達が訪れたのは日曜日であったが、クライマーは非常に少なく、オースチン・パワーズに数パーティーいたのみであった。アプローチがしやすく、取りつきが安定してのんびりできるのはオースチン・パワーズぐらいであるためか、あまり人

気がないのかもしれない。しかしながら、ソーホー・ウエスト辺りには難しい新ラインも引かれており、今後もそれなりに利用されるのは確かである。

面白いルートとしては、ソーホーのピール・ストリート、セントラルザウルス、ブレードランナー、そして、オースチン・パワーズのハングのルートなどが挙げられるが、ソーホー・ウエストの新ラインもトポにはまだ載っていないが面白そうである。

### ●その他の岩場

上記3か所以外の、ボルダリング及びクライミングエリアについては、「サイト情報&トポ」の項目内に関連サイトがあるので、興味あるエリアがあったら覗いてみてほしい。

今回は訪れなかったが、ブレイマー・ヒルのモンキー・バットレス、石澳、ランタウ島のイーグル・クラック、そして幾つかのボルダリング・エリアなど、興味あるエリアが盛り沢山である。